

積乱雲による雷・竜巻

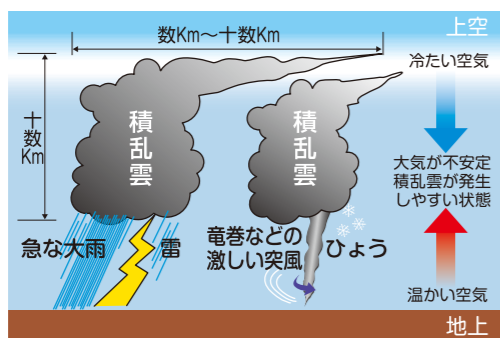
雷や竜巻は急に発生することがあります。
突然災害が発生しても対処できるようにしておきましょう。

気象庁からの情報に注意

知る

積乱雲により起こる

大雨による急な増水や雷、竜巻が発生する可能性があります。



気象庁からの注意情報

雷注意報	竜巻注意情報
落雷、ひょう、突風の情報による災害を注意喚起。	まさに竜巻の発生しやすい状況を注意喚起。
外出前には最新の注意報を確認し、注意する。	空の様子に注意し、積乱雲が近づく兆しを感じたら直ちに身の安全を確保。

いざという時の備え

備える

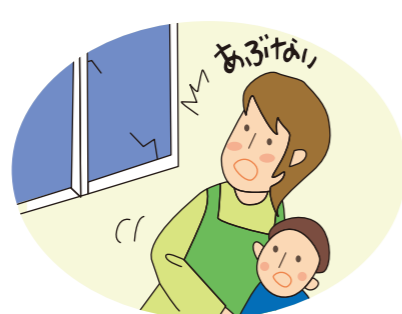
危険状況の把握

真っ黒い雲の接近、雷の音や光、冷風などは積乱雲が近づくサイン。



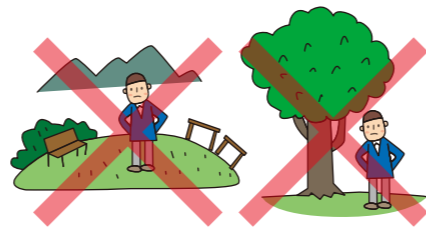
安全な場所の把握

窓や壁から離れたところが安全。



危険場所の把握

木の下や公園など周囲の開けた場所は落雷のおそれがあり危険。竜巻の際は物置や車庫、プレハブの中は危険。

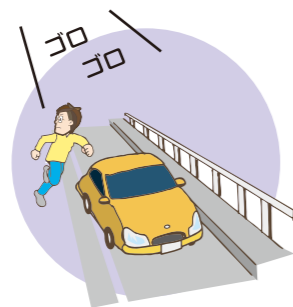


発生時は 身の安全の確保

身を守る

雷が起きたら

- 雷鳴が聞こえたらすぐに建物や自動車の中へ避難する。
- 避難する場所がない場合は姿勢を低くする。



竜巻が起きたら

- 頑丈な建物の中へ避難する。
- 避難する場所がない場合は、周囲より低い場所へ。
- 屋内では中心部に近い窓のない部屋か地下へ。
- 窓やカーテンを閉め、机の下に入り、頭を守る。



こんなときどうしたらいいの？

防災 Q&A

- Q. 危険を感じたら、自分で判断して避難所に避難していいの？
A. 自主避難として避難してください。避難前に役場に避難所を確認してください。

暴風雪などの雪害

暴風雪時は、視界不良(ホワイトアウト)になり大変危険です。
どのような危険があるか十分に把握しておきましょう。

雪害の危険

知る

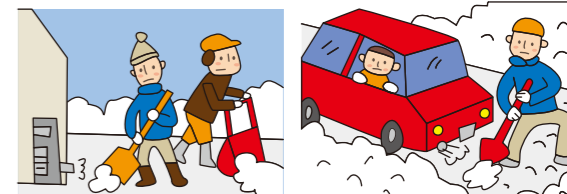
- 吹きだまりができ、車が立ち往生することもある。
- 車や暖房機の排気口が雪で埋まると一酸化炭素中毒の危険がある。
- 暴風雪の中では雪で数m先も見えず歩行が困難。低体温症の危険も。
- 除雪作業中は屋根からの落雪、転落などの事故が多数発生。



日頃からの備え

備える

- 悪天候が予想される場合は最新の気象情報や道路情報などを十分確認する。
- 暴風雪が予想される場合は無理をせず外出を避ける。
- 排気口がふさがらないよう除雪を行い、換気に注意する。
- 屋根の除雪作業は2人以上で行い、命綱・携帯電話を身に付ける。屋根からの落雪に十分注意する。



車が立ち往生! その時は

排気ガスによる一酸化炭素中毒の危険があるので、原則はエンジンを切り、救助を呼びましょう。

トピックス
もしもに備える

車に備える備品

チェック	車に備える備品 (例)
<input checked="" type="checkbox"/>	防寒着、長靴、手袋、毛布など
<input checked="" type="checkbox"/>	スコップ、牽引ロープ、ブースターケーブル
<input checked="" type="checkbox"/>	飲料水、非常食など
<input checked="" type="checkbox"/>	十分な燃料
<input type="checkbox"/>	

緊急時の連絡先

車の事故・救助の要請などは	車の故障・不具合・レッカー移動などは
警察 ☎ 110	JAFロードサービス ☎ 0570-00-8139
消防 ☎ 119	

徒歩で外出中に暴風雪に遭遇! そんな時は

帰宅が困難な場合は、近くのコンビニや建物の中など安全な場所に移動して、天気回復を待ちましょう。役場に連絡し、情報を収集するようにしてください。

天気予報で「数年に1度の猛吹雪」・「外出は控えて」等の言葉があれば警戒を!

停電にも備えましょう

停電は地震や暴風・暴風雪・大雪・落雪などで起きることがあります。

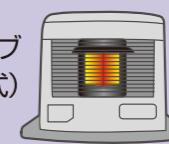
持出品の置き場所

置き場所を決めておく。懐中電灯とラジオは必須。



冬季の備え

防寒具やポータブルストーブ(電池式)など、寒さ対策を。



大規模停電

情報を収集し、必要があれば避難施設への避難準備を開始する。

